

令和8年度 日本大学経済学部 総合型選抜（資格取得型）
第一次選考審査の講評

日本大学経済学部

このたびは、日本大学経済学部の総合型選抜（資格取得型）に御出願いただきありがとうございました。

「エントリーシート」及び「小論文（事前課題）」について選考の結果、次のとおり講評いたします。

なお、御質問には一切応じかねますので御了承ください。

「エントリーシート」講評

「エントリーシート」の審査においては、次の4点を中心に評価を行った。

1. 「日本大学経済学部」に対する志望動機が明確に説明されているか。
2. 取得した資格を大学での学修や将来にどう活かそうとしているか。
3. 卒業後のキャリアに関する考え方がしっかりしているか。
4. 上記のキャリア展望に基づいて、入学後の学修計画が立てられているか。

以上4点のそれぞれについて、抽象的な一般論ではなく応募者自身の考えを具体的に述べているもの、取得資格との関連性が明確で、志望動機・学修計画・卒業後のキャリアに一貫性のあるものに高い評価を与えた。

全体の傾向として、応募者自身のこれまでの経験等に基づいた将来の目標・展望を最初に示したうえで、実現に向けた学修計画を具体的に提示したものが多かった。本学部のウェブサイトやオープンキャンパスで情報収集を行ったようで、授業科目名やサポート体制にまで言及したものも多く見受けられた。また、卒業後の希望進路を述べるにとどまらず、最終的なキャリアの実現にどのような資格や経験が必要かに言及しているものも少なくなかった。

一方で、本学部への志望動機が明確でない（他大学・他学部でも実現可能な）もの、資格と入学後・卒業後の計画が関連付けられていないもの、志望動機と入学後の計画との関連が明確でないもの、卒業後の計画が具体的でないものもあり、それらには高い評価を与えることができなかった。

「小論文（事前課題）」講評

今年度の第一次選考小論文（事前課題）のテーマは、スタートアップ企業が果たしうる役割について様々な観点から論述することであった。スタートアップ企業の出現がどのような影響を与えるのかについても論述してもらった。本課題の評価にあたり、理解力、文章表現力、論理性・独自性という評価ポイントを置き、さらに以下の点も重視した。

- ① 論述の開始に際して、「スタートアップ企業」の定義について明示できているか。
- ② スタートアップ企業が果たしうる役割について、明確な結論を示せているか。
- ③ 課題で提示された参考文献に加え、他の関連図書・資料を自分なりに整理したうえで論述に活用しているか。
- ④ 使用した参考文献の引用方法は適切であるか（例えば、文献リストを作成しているか、図書・資料から図表を引用する場合にはその箇所のページ数が記載されているかなど）。

提出された小論文の講評をまとめると以下の通りである。

評価ポイント①について、受験者の多くは論述の課題であるスタートアップ企業について定義した上で論述が展開されていた。提示した参考文献にもあったようにスタートアップ企業の定義は多様である。論述の開始に際してスタートアップ企業とはどのような企業であるのかについて定義し、その定義を踏まえた上でスタートアップ企業の役割を考察していた論文は高く評価した。その一方で、スタートアップ企業についての定義が不明瞭なままに論述を開始し、続く論述の中で段落ごとにスタートアップ企業の定義が一貫していなかったり、異なる定義を与えていると捉えられるものについては高く評価できなかった。

評価ポイント②に関して、論題であるスタートアップ企業が果たしうる役割について明確な結論を提示していないものが散見された。例えば、スタートアップ企業は経済成長にとって不可欠であると簡略的に述べた後に、それを支える環境とはどういうものか、政府が行うべき支援とは何かについて考察されているものが見られた。スタートアップ企業がどのような役割を果たすのかを問うている論題に対して、スタートアップ企業をどう支えるのかの議論に終始するのは課題を適切に理解できていないと判断せざるを得なかった。論述問題に取り組む際は、問われている内容が何なのか、それに対して自分の論述の結論が自分なりの答えを示しているかはよく確認して欲しい。

評価ポイント③及び④に関して、多くの受験生は課題で提示された参考文献以外の図書や資料を引用しながら論述していた。この点については高く評価できた。その一方で、資料・文献の引用が適切に示されておらず、資料に書かれている文章なのか、自分の考えなのか混同してしまうような解答があった。こうした点については形式上の不備として減点対象とした。

総合的に高い得点を目指す場合には、課題が求めている内容がすべて充足できているかどうかを今一度丁寧に確認するとともに、形式上求められていることを正確に踏まえ、小論文を作成することが不可欠である。

以 上